



新しい時代へ

大阪市立小中学校事務研究会 会長 西尾 吉弘



平成29年度がスタートして、あっという間に夏を感じる季節となり、気が付けばもうすぐ子どもたちにとっては楽しい夏休みが始まります。私たち学校事務職員にとっても、慌ただしく過ごした時期も終わり、ひと段落している今日この頃ではないでしょうか。

この間、私たちを取り巻く環境は、大きく変わりました。中央情勢において、平成29年2月7日に義務標準法等の一部を改正する法律案が閣議決定後、国会の承認を経て平成29年4月1日に施行されました。事務職員に関連する内容で特に注目すべきことは、学校教育法等において、学校事務職員に関する職務規定の見直しが盛り込まれ、「事務をつかさどる」とされました。これにより、私たち学校事務職員の役割が拡大すると同時に、チーム学校の中で要となり、さらなる積極的な学校経営への参画が求められていくのではないかと思います。

大阪市の情勢では、大阪市へ府費教職員の給与負担等の移譲が行われ、勤務条件や給与制度などが大きく変わりました。同時に「大阪市立学校管理規則」についても、事務主幹及び事務主任の職務内容の整理や権限移譲に伴う規定整備等の改正が行われました。さらに、「学校間連携実施要綱」についても、学校間連携を通じて学校事務職員の資質・能力の向上や学校事務機能の拡充とより一層の適正かつ円滑な執行を図り、学校教育の充実と学校のマネジメント機能の強化を図ることを目的に改正が行われ、学校事務の監理及び支援などの学校間連携で実施する事項の拡充とともに、学校間連携の組織において、事務主任が連携グループにおける学校事務を掌理することや、事務主幹が複数の連携グループで構成される連携ブロックを掌理すること、主務は事務主任を補佐することなどが定められました。

このように日々刻々と状況が変化するなかでも、私たち学校事務職員の使命はこれまでと同様、「子どもたちの学びを豊かにする」ということに何ら変わりはありません。より良い学校教育の充実に向けて、子どもたちのために「何ができるか」「何をすべきか」を考えながら、今後も会員みなさんと一緒に活動を進めてまいりたいと思います。

さて、5月26日（金）港区民センターにおいて研修会を実施し、終了後、総会を開催しました。総会ではすべての議案についてご承認いただきました。当日はたくさんのご参加をいただきありがとうございました。なお、当日の様子についての詳細はP2～4をご覧ください。

最後になりましたが、京都市では、今年の夏は、例年になく暑い夏となります。それは、8月2日（水）～4日（金）の日程で、第49回全国公立小中学校事務研究大会（京都大会）が開催されるからです。市事研もこの京都大会で第3分科会を担当し、研究発表を行います。現在、発表に向けて研究部を中心に準備を進め、ラストスパートに入ったところです。会員みなさんからも「がんばれ」とご声援をいただければ幸いです。私たちも成功に向け、一丸となりがんばってまいりたいと思います。それでは、今年度もどうぞよろしくお祈りいたします。

研修会 学校教育ICT活用事業について

大阪市教育委員会事務局 教育センター 教育振興担当
指導研究グループ 指導主事 古閑 龍太郎 様

平成29年5月26日（金）、大阪市立港区民センターにおいて研修会を開催した。

この研修会では、文部科学省が推進している『教育の情報化』の重要性、本市が実施している『学校教育ICT活用事業』の概要、学校事務職員の関わり方等について、お話しいただいた。

現在、世界中でAI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）等の活用が進んでおり、20世紀後半に発達したIT技術やコンピューターによる自動化を活用した第3次産業革命の時代を経て、データ収集・解析技術等で機械自らが考え行動する自律化を活用した第4次産業革命の時代へと変化してきている。

株式会社野村総合研究所では、英オックスフォード大学のマイケル A. オズボーン准教授およびカール・ベネディクト・フレイ博士との共同研究を行い、日本国内601種類の職業について、現在の日本の労働人口の約49%が10～20年後には、コンピューター技術に代替される可能性が高いとの推計結果が得られている。

これらの説明ののち、古閑様は「人工知能が飛躍的に発達していく、そんな時代をこれからの子どもたちは生き抜かなければならない。そのような状況の中、子どもたちを育てる学校教育は私たちが学んだ20世紀の方法と同じで良いのか。これから生きる子どもたちには、AIに使われる側ではなく、AIを使う側になってほしい。」と述べられた。

次期学習指導要領の中にも、「情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること」と示されている。

また、大阪市の『学校教育ICT活用事業』では、ICTを活用した教育活動により、子どもたちに育む必要がある力として、以下の4点を挙げている。

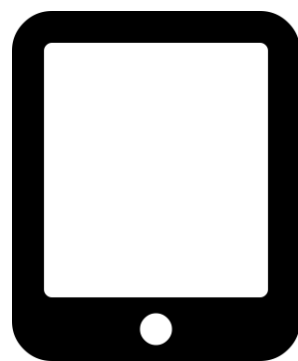
- (1) 自分の考えを分かりやすく表現できる力。
- (2) 多様な考えを取り入れ、自己の考えを分析修正できる力。
- (3) 世界の人とつながり情報の共有ができる力。
- (4) 社会の課題について考え仲間と協働して課題解決ができる力。

単に機器を使用することや機器に慣れることだけが目的ではなく、このような思考力・判断力・表現力の育成等が、これからの学校教育には必要となる。

現在、大阪市ではモデル校を中心にタブレット端末等のICT機器を実際に操作し、アプリ等を活用した公開授業も行われている。モデル校以外の学校についても、タブレットの導入はもちろん、各学校に必ず1名はICT教育担当教員を置くこととなっている。また、教員向け研修の実施やICT支援員の訪問等も行われており、大阪市の学校全体でICT教育を推進している。

最後に、ICT機器の運搬に必要な道具（ワゴン・カート）やケーブル、機器（タブレットスタンド・書画カメラ）の整備例、プロジェクターの壁面取付例等の紹介があった。

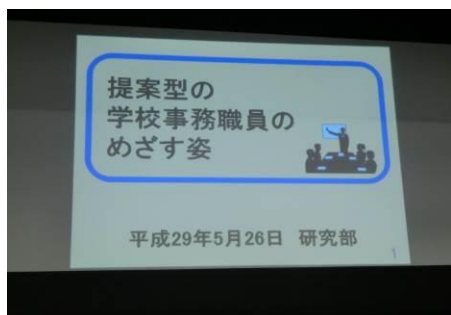
『学校教育ICT活用事業』とは、単なる学力向上が目的ではなく、子どもたちが学校教育を通じて身につけるべき資質や能力を育てるものであることを再認識し、学校教育の充実を推進する教職員の一人として、とても考えさせられる研修会となった。



研究報告 提案型の学校事務職員をめざす姿

研究部

研究部では平成27年度から学校事務職員が積極的に学校経営へ参画する方法の一つとして、「提案すること」に焦点を当てて研究を進めてきた。平成27年度に「提案型の学校事務職員をめざして」、平成28年度は「提案型の学校事務職員に求められるもの」と題し、研究発表を行ってきた。そして今回は、これまでの研究の経緯を踏まえながら、「提案型の学校事務職員をめざす姿」と題し、研究の経過報告を行った。



はじめに、「なぜ積極的な学校経営への参画が必要なのか」、「なぜ提案型の学校事務職員が求められるのか」について、研究を進めてきた経緯を振り返って説明した。これからの学校経営に求められることとして、企業における営業スタイルを例に挙げ、「学校事務職員に求められる変化」について説明した。課題解決や改善に向けた提案だけではなく、「課題解決+ α 」の提案をするためには企画立案段階から参画することが必要であることから研究部では、学校事務職員が「事務をつかさどる」ということの意味を再認識し、これまで培ってきた学校経営への参画を基盤としながらも、学校教育の発展に向けた提案によるさらなる参画が必要と考え、「提案型の学校事務職員」をテーマとして研究を進めてきた。

これまで研究部では、提案型をめざす糸口として、提案の実践に取り組んできた。今回の経過報告では、まず、昨年度の研究大会の振り返りとして、昨年度の研究集録からいくつかの実践報告を行った。提案実践「節電意識の向上にむけて」では、電気使用量やガス使用量の推移をグラフにして掲示することで、教職員や子どもの電気やガスの使用量への興味関心を高めることにより節電につながったことや、提案実践「学校フォルダの整理」では、学校フォルダ内にファイルが乱立し、必要な情報を探し出すのにも時間がかかってしまう状態となっていたことから、学校フォルダ利用における校内でのルールづくりを行うことで業務を効率化につながったことを報告した。



次に、現在の大阪市が進めているICT施策の中で、導入されたICT機器を有効に活用するためには環境整備が必要であり、学校事務職員であるからこそ行うことができる今後の提案の可能性について説明した。

日々の業務を正確かつ迅速に滞ることなく行うことは、学校事務職員にとって重要な基礎である。しかし、日々の業務を淡々とこなしているだけでは、規定やマニュアルに沿って正しく処理をする作業自体が目的となってしまう。個々の業務について、必要とされる理由や、他の業務との関連を掘り下げて考え、それぞれの業務の根本にある「子どもたちの学びを豊かにする」という学校事務職員の使命について意識することが必要であると、研究の経過報告を締め括った。



これまでの提案実践の検証から、提案型の学校事務職員としてのめざす姿について考察してきた結果等を踏まえて、提案型の学校事務職員が学校教育に対して今後、どのような場面でどのような提案ができるのか、「これからの提案」の可能性についての考察を、第49回全国公立小中学校事務研究大会（京都大会）で発表します。

アンケートより



《研修会》

- ・「学校教育ICT活用事業」が単に学力向上を目的としている事業ではなく、子どもたちがこれからAIやIoTの渦巻く未来を生き抜いていくための事業だと知り、教育というものの可能性や奥深さを勉強させていただきました。学校事務職員として教育のサポートができるようもっと頑張ります。

【小学校 5～10年目】

- ・最近、ICT関係の消耗品・備品の購入や工事が増えてきており、それらが授業でどのように活用されているのか興味があったので、この研修会でイメージを持つことができました。また、事務職員の関わり方を知ることができてとても勉強になりました。

【中学校 21年以上】

《研究報告》

- ・日々の業務の中で、改めて「何のために仕事をしているのか」という思いは埋もれがちになってしまうが、このような機会ですべて、事務職員としての意識を深めることができた。私も、提案型の事務職員をめざしたい。

【小学校 5年未満】

- ・提案の実践事例を聞くと、普段自分が「もっとこうしたいな」「こうならないかな」と感じていることと同じ内容だったので、自ら提案する内容というのは、案外身近にあって、決して難しいことではないのだなと感じました。

【中学校 11～20年】

平成29年度 総会開催

平成29年5月26日（金）大阪市立港区民センターにおいて、平成29年度 総会を開催し、すべての議案について承認された。

- 第1号議案 平成28年度 事業報告について
- 第2号議案 平成28年度 会計決算報告について
- 第3号議案 平成28年度 監査報告について
- 第4号議案 会則の改正について（案）
- 第5号議案 平成29年度 役員等選出について
- 第6号議案 平成29年度 事業計画（案）について
- 第7号議案 平成29年度 会計予算（案）について

専門部員募集！

研究部・研修部では
部員を募集しています！
興味のある方は
各部長までご連絡ください。

会則の改正について（案）の承認により、時機に即応した研究・研修に取り組み、事業の円滑な実施と新しい人材を登用し組織の活性化を図るため会計業務を副会長の職務とし、役員任期を1ヵ年とした。

幹事会報告

6月26日（月）大阪市教育センターにおいて幹事会を開催した。
詳細は次のとおり。

- 1 今年度の活動について
 - (1) 市事研全体の活動内容
幹事会の開催について・会則改正について・研究大会について
 - (2) 事務局 会報198号発行
 - (3) 研究部 5/26 研修会にて中間報告「提案型の学校事務職員のめざす姿」
 - (4) 研修部 6/20 研修部会開催

- 2 第49回全国公立小中学校事務研究大会 京都大会
平成29年8月2日（水）～8月4日（金） 分科会は8月3日（木）
市事研は第3分科会担当
分科会テーマ「提案型の学校事務職員をめざして」
～子どもたちの学びを豊かにするチームの一員として～
分科会会場 ロームシアター京都 ノースホール

- 3 業務連絡
 - ・学校維持運営費予算の管理について（水道使用料、校舎窓清掃業務にかかる経費の特別配当）
 - ・府費給与資金前渡口座等の取扱いについて
 - ・見積業者リストの更新について ・旅費業務マニュアルの更新
 - ・教職員給食費現金用納付書作成の注意点について

- 4 その他
全事研会報228号配付

大阪府公立学校事務研究会 定期総会・事例報告

平成29年5月29日（月）たかつガーデン（大阪府教育会館）において、第26回定期総会が開催された。次の議事のとおり進行し、全ての議案について賛成多数で承認された。

- ① 平成28年度 事業報告について
- ② 平成28年度 会計決算報告並びに監査報告について
- ③ 平成29年度 役員等の選出について
- ④ 平成29年度 事業計画（案）について
- ⑤ 平成29年度 会計予算（案）について

また、定期総会終了後、豊中市学校事務研究会研究部より「教材整備指針と学校予算制度」と題し、各校の教材整備状況について実施したアンケートの結果や分析内容についての事例報告が行われた。

他団体日程等

大阪府公立学校事務研究会 研修講座	7月 7日（金）
第49回全国公立小中学校事務研究大会 京都大会	8月 2日（水）～ 4日（金）
第35回政令指定都市学校事務職員研究協議会（横浜市）	8月17日（木）～18日（金）

平成29年度 役員・事務局専門部員・監査委員名簿

	名 前	行 政 区	所 属
会 長			
副 会 長			
事 務 局 長			
事 務 局 次 長			
事 務 局			
研 究 部 長			
研 究 副 部 長			
研 究 部 員			
研 修 部 長			
研 修 副 部 長			
研 修 部 員			
監 査 委 員			

平成29年度 幹事会名簿

行政区・方面	名 前	所 属
北		
都 島		
福 島		
此 花		
中 央		
西		
港		
大 正		
天 王 寺		
浪 速		
西 淀 川		
淀 川		
東 淀 川		
東 成		
生 野		
旭		
城 東		
鶴 見		
阿 倍 野		
住 之 江		
住 吉		
東 住 吉		
平 野		
西 成		

第49回 全国公立小中学校事務研究大会（京都大会）

平成29年8月2日（水）～4日（金）に開催される第49回全国公立小中学校事務研究大会（京都大会）において、市事研が第3分科会（大阪中支部）を担当します。

《申込みは6月15日に終了しました》

※大阪市の分科会につきましては定員に達しました。ありがとうございました。

※分科会担当のため、平成29年度の大阪市立小中学校事務研究会研究大会は開催いたしません。

会員の皆様には、京都大会終了後に記録集にて分科会報告を行います。

学校徴収金会計事務についての資料をホームページの資料掲載ページに掲載する準備をしています。

※資料掲載にあわせて、7月21日（金）までに今年度分の会費を納めていただいた方へ、資料掲載ページ用のパスワードを発送する予定です。会費の納入をよろしくお祈りします。



研修部PC講座

～《Vol.2》画面の名称を覚えよう～

- ①タイトルバー
 - ②最小化
 - ③元のサイズに戻す・最大化
 - ④閉じる
 - ⑤クイックアクセスバー
 - ⑥リボン
 - ⑦タブ
- （①～⑦前回掲載済み）

⑧文書ウィンドウ

文章を入力したり図を挿入する場所です。

⑨カーソル

点滅している縦棒をさします。カーソルの位置から右に向かって文字や表などが挿入されます。

⑩スクロールバー

現在画面に表示されていない部分を表示する場合に使用します。

⑪ステータスバー

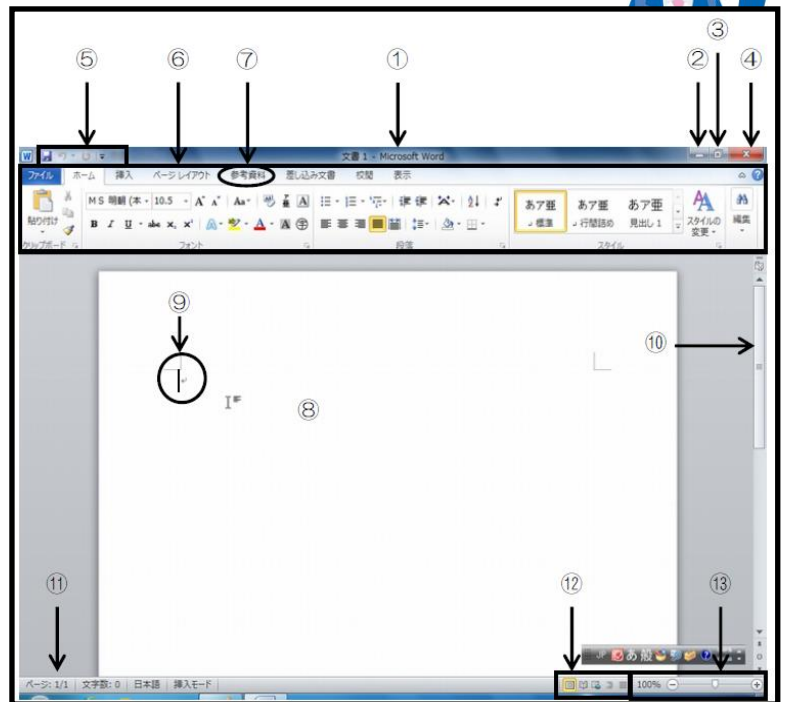
作業中の文書情報（カーソルの位置や表示しているページ表示など）が表示されます。

⑫文書表示ボタン

文書表示モードを切り替えます。

⑬ズーム／ズームスライダー

文書の表示倍率を調整します。



～編集後記～

宿泊行事や校外学習と慌ただしく始まった1学期があつという間に終わろうとしています。慌ただしい中でも、研究経過で報告されていた「子どもたちの学びを豊かにする」を意識して業務に取り組んでいこうと思います。市事研が分科会発表を担当する第49回全国公立小中学校事務研究大会がいよいよ来月、京都で開催されます。皆さまのご参加をお待ちしています。（K）